

市民経済委員会議会報告会報告書

報告日：平成 30 年 1 月 11 日

出席者	参加者	28 人	
	議会側	【市民経済委員】宮川、大道、赤木、乗越、加根、重森、岡田 【委員 外】牧尾、北林、中川	
開催日時		平成 29 年 11 月 7 日（火）14：00 ～ 15：45	
開催場所		豊栄生涯学習センター 大研修室	
実施内容報告	第 1 部 議会報告	テーマ	東広島市産業振興基本条例 報告者 乗越委員
		概要	I 条例制定の流れ II 小規模企業振興基本法の概要 III 小規模支援法の概要 IV 東広島商工連絡協議会からの要望書 V 東広島市から要望書に対する回答 VI 市民経済委員会にて協議、制定までの経過
		テーマ	地域おこし協力隊 報告者 赤木委員
		概要	I 「地域おこし協力隊」とは II わが市の「地域おこし協力隊員」 III 検証「地域おこし協力隊」の任期終了後 ① 任期終了後の定住状況 ② 定住した隊員の動向
	第 2 部 グループ別 意見交換会	【A グループ】 市民 男性 4 名、女性 2 名 委員 加根、岡田	
			【主な意見】 ・ 中小企業支援については、条例を制定しただけで、市が具体的に何をするのか、まだ見えない。市が引っ張る形で、町ごとの施策を展開して欲しい。 ・ 農業施策については、法人化が進められているが、人材・担い手不足で現場は大変であり、市の取組みを望む。 ・ 豊栄地域では、サタケの力により活性化が図られており、民間企業の力は大きいと感じる。企業は実行に移すスピードが速く、行政もその点は参考にすべきだ。 【委員まとめ】 ・ 産業振興条例はできたが、実際には誰がどう取り組むのか、人材がいなことが直面している大きな課題だと感じた。今後、力点を置いて取り組む必要がある。 ・ 農業においても人材不足であり、補助金頼みになってい

			る。市民経済委員会で取り組む課題である。
		【B グループ】 市民 男性 6 名 委員 赤木、大道	
			【主な意見】 ・ 10 年前に U ターンし、農業法人で頑張っているが、販路開拓など厳しい。 ・ 都会で暮らしていたが東北大震災を経験し、交通マヒなどで都会では暮らせないと思い、移住してきた。人間関係や自然環境など田舎が見直されるときが来る。 ・ 定年で西条に帰ってきたが、随分環境が変わっている。地域のまとまりやコミュニティは弱くなっている。 ・ 田舎は暮らすには最高の環境だが、所得がなければ生きていけない。孫もいるが豊栄で頑張れとは言えない。 ・ 農業法人も後継者が問題になっている。定年で帰って来ようにも、寂れてしまっては帰ることもできなくなる。行政施策で帰って来られる地域を残して欲しい。
			【委員まとめ】 ・ 豊かな自然など都会にはない財産がまだ残っている。これを残すために地域おこし協力隊制度を活かす必要がある。 ・ 都会から人を呼ぶと同時に、子や孫が帰ってこられるような環境づくりをする必要がある。
		【C グループ】 市民 男性 1 名 (内 1 名地域おこし協力隊員)、女性 5 名 委員 乗越、重森 議員 北林	
			【主な意見】 <山田協力隊員> ・ 採算の取れる農業を目指して、アスパラや白ネギに挑戦している。隊員ひとりが定住するよりも、移住者を 10 人、20 人増やせる基盤を作りたい。 ・ 空き家については、闇雲に対策を打つのではなく、空き家の課題を可視化し、具体的な取り組みに繋げる必要があり、対策のためのプロジェクトに取り掛かっている。 <市民> ・ 人口減少や高齢化は何とかして欲しいが、自分の子どもは外に出ているとの負い目がある。 ・ 地域の様々な活動に参加しているが、それぞれが点であり線や面になっていない。

			・地元意識を持つ必要がある。安さだけで西条で買い物していたら地域の商店がなくなる。(隊員/10年後の危機感を持って対策を打つ必要がある。) <委員> ・産業振興条例が出来たからバラ色ということではなく、事業者も意識改革が必要だし、行政も計画的に施策を打つ必要がある。 ・産学官連携で豊栄プロジェクトが始まっている。サタケの「豊栄くらす」やジビエ、バイオマスなどにより、人々が幸せになるプロジェクトの達成を目指している。
			【委員まとめ】 ・地域の人達は、地域おこし協力隊員が地域のために何をしているかを今日初めて聞いて、自分たちも何が協力できるか意識改革が必要との話になった。
		【Dグループ】 市民 男性8名 委員 宮川 議員 中川	
			【主な意見】 ・ジビエセンターの従事者が豊栄に移住したいとのことで空き家を探したが、「仏壇があるから」などの理由で貸してもらえなかった。空き家対策は喫緊の課題である。 ・市営住宅の入居基準が市内一律で家賃が高いため、豊栄の若者が入れず、入居率が低い。家賃を安くしてでも、豊栄に住み続けられるようにしてほしい。 ・市が廃止になったプールを利用してオオサンショウウオの生態研究保護に乗り出した。市が初めて豊栄のためになることをしてくれた。 ・市長も職員も議員も現場に来て現場を見て欲しい。地域の現場を見てくれなければ何もわからない。
			【委員まとめ】 ・市営住宅の入居基準の件で気付いたのだが、家賃に限らず水道料とか税とか市の制度を利用して、周辺地域を安く設定することで中心部から周辺部へ人口移動を誘導してやり、過疎と過密の問題を少しでも解消するという施策も必要ではないかと感じた。 ・現場に来いという言葉はその通りと思う。現場を見ないから意思疎通ができなかったり、現場に合っていない対応になってしまう。
	要望・提言等	・賀茂北高校の募集が来年度から1クラス40人になる。いい	

		高校だがバス通学のため交通費が高くて敬遠されがちだ。存続のために廿日市のように通学補助を制度化できないか。 ・安宿地域センターのプールは、夏休みになると孫が帰ってきて利用していて評判がいいが、市は廃止の方針と聞く。存続を強く望む。 ・市は集会所を譲渡しようとしているが、譲渡するなら修理を済ませて譲渡すべきだ。譲渡後でも修理のための補助金を出すと言うが、これまでも修理を頼んでもやってくれなかったもので、信用できない。 ・豊栄の火葬場は2基分のスペースがあるが1基しか稼働していない。葬儀が重なったときに、他の火葬場を探したり、ときにはその日にできないこともある。2基稼働できるように望む。
	その他 特記事項	・ワールドカフェ方式による市民との意見交換は、市民側からも議員側からも大変好評であり、再度の開催を望む声や、時間延長を望む声も多く聞かれた。 ・事前に豊栄地域の自治協議会の役員さんたちに参加人数を示して出席要請を行ったところ、多数参加していただくことができた。 ・要望事項については、市民経済委員会所管のものは委員会で所管事務調査項目として調査し、結論を出す必要がある。また、他の委員会の所管となるものは、各委員会へ報告し検討を要請する必要がある。